

此の後の生活の如く、痛楚の時臨むを頼みは自費の者
 すれば支らぬ。一層多しと醫者に出掛りて治す水の
 五年が十年を度する者も十年歳の長に病を治して
 見れば一しちの病屋人比個人経営の時からと同一
 一為致ししと権力と管理の二者は自由以下の者の位
 以自由た、多故を云ふのは一斗に討つる一合を配業
 人の自由を受取つてから後は人友もかあつて其
 一合に多故受取つてとせると云ふのは、一合以上は故不
 成は一合、不完差引かゆる其辯論の
 身存心七尺七の由宛宛つて取業を過ぎては心
 意を一般の用人に討して事在中者も此無り
 一合同業が二斗安債が二用物也茶料の二用

別に五年以上の勤続者にして三斗以上は
 一合の介度の四能工には事始者一人も
 つた、若んた勤続者も寄合金生活の若かり
 あつた、最御条件を出したつた、此巨長か留方
 云つたの、其日の中、寄合金を見廻りて
 の配業一人か奴つたの、あつた、為頭
 も合はん、二合もか、一合は勢力
 りもい、あつた、一合は銀
 用いた、若くは寄合高年現
 人を自費の二銀説をし、
 云つて居る、此の罷工が
 此若識者と見たり者、
 配業一人

冊四 第 一 冊